

第3回 北九州市後期中等教育に関する検討会議【会議要旨】

- 1 開催日時
令和2年7月3日（金）9：00～11：00
- 2 会議形式
オンライン会議
- 3 出席構成員
8名（構成員定数8名）
- 4 議事
 - (1) これまでの意見について
 - (2) 本市における後期中等教育の方向性について
 - ①意見のまとめの構成
 - ②本市の後期中等教育を取り巻く状況、後期中等教育に関する現状、後期中等教育を有する意義等
 - ③市立高等学校の今後のあり方
 - ④戸畑高等専修学校の今後のあり方
 - (3) 今後のスケジュール
- 5 会議経過
議事（1）これまでの意見について

根橋指導企画課長より説明【資料1】

竹永教育振興担当課長より動画に基づき両校の説明

- 座長 ありがとうございました。
 ただいまの事務局の説明に対しまして、ご質問ご意見ございますでしょうか。
 私のほうから1点お尋ねします。戸畑高等専修学校は、北九州中央高等学園と施設を共有していますが、日常的な交流や施設の一体利用のメリットを活かした活動はあるのでしょうか。
- 構成員 教育課程等が違うので日常的な交流はありません。ただし、避難訓練等、合同で取り組むべきものは実施しています。

議題（２）①意見のまとめの構成

根橋指導企画課長より説明【資料２ P1】

座長 ありがとうございました。
 ただいまの事務局の説明に対しまして、ご質問ご意見ございます
 でしょうか。
 意見のまとめの構成は、大きく４つの柱建てで、バックグラウン
 ドとしての状況、現状認識ときて、起承転結の転で市としての後期
 中等教育の方針を示すことになると考えますが、ここは検討会とし
 て議論すべきところになります。そして結論として方向性を示して
 いくことになります。
 皆様、ご異議ありませんか。

構成員 異議なし

議題（２）②本市の後期中等教育を取り巻く状況、後期中等教育に関する現
 状、後期中等教育を有する意義等

根橋指導企画課長より説明【資料２ P2～4】

座長 ありがとうございました。
 ただいまの事務局の説明に対しまして、ご質問ご意見ございます
 でしょうか。

構成員 市内就職率のアップは、企業と学校が取り組んでいるところですが、
 この議論になると今回のテーマからは難しいように感じます。
 コストの面、北九州市の現状の中で市立の学校を維持する費用の
 説明がほしいです。

座長 コストの話は第１回会議でも出ていました。学校の老朽化等の問
 題もあるので、費用対効果に踏み込んで議論すべきであるため、是非、
 基本的なデータとして事務局で用意してください。
 もう１点、今回の方針を決めていく背景として、北九州市の産業
 構造や人口問題、経済の状況を踏まえないと議論はできませんが、
 全４回の本会議では議論を尽くすことは難しいところがあります。
 そのあたりは全体的に意識しながら、さらに第２期北九州市まち・

ひと・しごと創生総合戦略の議論を踏まえながら進めていく必要があると思います。

また、新型コロナウイルスは単なる一過性の問題ではありません。入口と出口の景色が違うのではないかという状況の中で、これからどのように人材育成をしていくかは必要な議論であると思います。

構成員 ご質問が2つと、感想が1つです。

資料2のP2の最近の高等学校等・大学の状況で、探求に関する方向性を示すように思われますが、その認識で間違いないか、あるいは、この段階ではもう少し広い議論を行うのかを教えてください。

2点目は、資料2のP3の後期中等教育に関する現状についてですが、生徒に対するアンケートなど、在校生の意識や状況等のデータについて、本会議でどうするのかを教えてください。

座長 2点ご質問がありました。今、探求は大きな流れですが、それに焦点化していく方向性なのかということと、現状のエビデンスとしてアンケート等はどのような状況なのかというご質問です。

事務局 第1回会議でゲストスピーカーの中村様から学力の3要素の紹介がありました。その中で特に探求については、高校の学習指導要領においても総合的学習の時間から探求の時間に変更になっており、かなり力を入れています。そのような全体像を説明しながら、探求の重要性を言及していくことになるかと思います。

もう1点のご質問ですが、第1回会議において、平成30年度に学校評価アンケートを出していますが、市立高校に入学してよかったと思うか。や学力を身に付ける授業が行われているかなどは保護者にアンケートを実施しています。もともとは中学生にアンケートを取る予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止としております。

今後、学校、保護者、生徒、教員に対して、改めて何らかのアンケートを取るということはありうると思います。

構成員 「市内の特定産業への人材供給」は難しいと思います。産業政策の問題として、生産性の向上や働き方改革、3Kであるとか、働く場所自体の改革が重要であるため、特定の人材の供給という形での

高校の位置付けは現段階では予測しづらいと思います。そのような中で新型コロナウイルスで入口と出口が大きく変わっている状況となり得る中では、汎用的な力を身に付け、変化の激しい時代に対応していくことが必要と感じました。

自動車産業等の一定の産業が安定して存在している他の自治体では、あまり大きな変化に思い巡らす機会が少ないと思います。

一方、北九州市は過去に大きな産業の変動を経験しています。この経験を探求的な学びの活動あるいは未来を見据える素材として活用していく方向性も「北九州らしさ」として良いと思います。

構成員

中学校が高等学校や専修学校等に魅力を感じるの、どのような学びが用意されていて、どのような経験を積み重ねることができるかだと思います。出口のイメージとして、自分の興味関心や適正等に応じて選択枝が広がって自分が行く道を選択する力を身に付けることが学びの中で用意されていることが、魅力になっていくと思います。

中学校にとっては、高校や専修学校等への進学自体が目的ではなく、そこで社会人等になっていくための力を身に付け、また、そのための大学等の進学だと思います。

そういう意味でも最終的には特定の産業を目指す場合であっても、汎用性を高めるような教育が子どもたちにとっては重要だと思います。

座長

後期中等教育の今後に関する基本的な方向性については、「市内の特定の産業への人材供給」でスペシャリストの養成を行うのか、それとも「生徒への学力保障及びその延長としての進路保障」として底上げを目指すのかについてご意見を頂き、どちらかという後者を目指すべきとの意見でした。

次に、北九州市の後期中等教育に関して統一的な見解として、何かありますでしょうか。

構成員

今後、産業構造は激しく変化していくことが考えられることから、汎用性の高い教育を進めていくことが重要だと思います。

高校改革の問題については、新型コロナの影響でより深く考えることになりました。Society3.0の時代では、変化が緩やかであったため終身雇用が可能であり特定の企業に所属していくという考え方がありました。所属のためには、偏差値が高いことが有利であり、今まで

の高校は偏差値というポイントを得るための教育に時間を投じてきたと思います。本来であれば、社会のリアルな経験を積むことが必要であったにも関わらず、受験勉強で埋め尽くしてきたのが全日制普通科だったと思います。

インターネットの普及した Society4.0 の時代では、変化は急激で企業の寿命は、人が働く期間より短くなっています。そのため、新しい社会や仕組みづくりに参加できるような汎用性のある人材を育てていかなければなりません。どのように社会に関われば、社会がどのように変わるのかについては、感覚であるため、体験しなければいけません。そのため高校時代にリアルに働くとか、地域をフィールドにした探求活動などのプロジェクトベースラーニングが重要性を増してくると思います。一方、今回の長期休校で教科の学習はオンラインでかなりの部分が代替可能であることが分かりました。このようなことを踏まえると、これからの時代は全日制普通科ではなくて、定時制や通信制のような形であると思います。このような考えは、後期中等教育を取り巻く環境の一部に盛り込むべきだと思います。

また、一定の産業が安定して存在している他の地域と比べ、北九州市は未来に向けた話がしやすいというアドバンテージを活かしてほしいと思います。

新型コロナで非常に大変な経験をしたことも財産と思います。新型コロナで臨時休校になっても学びを止めないような教育の在り方と高校教育改革は、同一の路線だと思います。つまり、日頃から誰かに強制されない学びの自走性が定着している学校は、今回の新型コロナでも影響が少ないと思います。一方で、先生が生徒を管理・強制してきた学校はダメージが大きいと思います。そのため、自走性を高めるところに自分の興味関心を軸にして学びを深める探求があります。これは県立高校ではできないと思います。だから北九州市でやる必然性を打ち出していけるとと思います。

産業人材が地元でなかなか就職することができないことについては、人間関係を作ることが有効だという見方もあります。高校時代に地域の祭りやプロジェクトを通して、地域の企業関係者と高校生と一緒にアクティビティをしていくことは自然に人間関係ができてきます。そのような関係があれば、大学等に進学してもインターンシップや採用等は実現していく可能性が高いと思います。そのため、高校で特定の分野の産業の知識や技能を注入するのではなく、地域で企業の方々と高校生が人間関係を醸成できる機会をつくって

いくことが地域課題探求ともマッチングしてくると思います。

座長 学校教育のシステム自体の大きな転換期にあつて、教育と学び、組織と個人の関係という大きな見直しのご提案を頂きました。

構成員 市立高校として探求の時間をどんどん進めていかなければならないと考えています。市内に1つしかない市立の高校であることから、いかに地域に貢献できるのかを子どもたちに意識をさせたいと考えています。そこで探求の時間で3年生の普通科の生徒が北九州市が押し進めているSDGsを意識しながら、どのように地域に貢献できるか、そして、自分自身の進路についてどう考えていくのかということに取り組んでいるところです。

これまでも地域の企業からは、市立高校の卒業生は一所懸命がんばってくれていると評価を得ているところです。これを持続させることも大事であり、もう一は、自分自身でどう進路を選択していただくことが大事だと思います。そういう意味でも探求の時間というのはこれから大事にしていきたいです。

議題（2）③市立高等学校の今後のあり方

根橋指導企画課長より説明【資料2 P5】

座長 ありがとうございます。
ただいまの事務局の説明に対しまして、ご質問ご意見ございますでしょうか。

「学びの土壌づくり」の関係で留意すべき事項等について、ご意見ございませんでしょうか。

構成員 「学びの土壌づくり」は、高校と地域で意思疎通の問題です。これは全国の県立学校が実施しようとして組織の壁が超えられず実現しなかった事例が多くあると思います。その点、市立高校であれば市との意思疎通の円滑さは絶大であります。これで成功しているのが富士市立高校だと思います。意思疎通の円滑さが教育のクオリティの高さに繋がっている貴重な例です。

議題（２）④戸畑高等専修学校の今後のあり方

根橋指導企画課長より説明【資料２ P5】

- 座長 ありがとうございました。
 ただいまの事務局の説明に対しまして、ご質問ご意見ございますでしょうか。
- 構成員 保護者や生徒に対して、就職に対する希望とか、学校に対する改善の提案等のアンケートを取られたことはありますか。
- 構成員 就職等の進路に関するアンケートは、毎年、学期毎に実施しています。学校の教育課程等の要望に関するアンケートは実施していません。入学してきた生徒から、教育課程に関する改善の要望の声はなく、現状の教育課程に満足していると考えています。
- 構成員 生徒の中退率が高いように感じますが、その原因を教えてください。
- 構成員 4人に1人は卒業できていない状況です。
 本校の生徒には中学時代に学校生活に馴染めずに不登校であった子どももいます。自己表現できる学校ということで本校を選択していますが、人間関係等を築くことが難しい等の理由で辞められる場合があります。
 また、戸畑高等専修学校の教育課程は、服飾に関する専門科目、和裁や洋裁の授業が大部分を占めており、技術面ではかなりの能力を要しますが、自分の理解や技術が追い付かないと感じる生徒もいます。
- 構成員 実態として別の機能があることが分かりました。
- 構成員 SDGsの観点から、不登校の生徒を積極的に受け入れることは良いと思います。一方で、不登校等の生徒について、他の県立や私立の学校がすぐれた取り組みを行っており代替が可能かを考える必要があると思います。そこがないのであれば、戸畑高等専修学校で積極的に受け入れて、自尊感情や自己肯定感や持って社会に出てもらうというモデルを市として示すことが求められると思います。

座長 戸畑高等専修学校が、別の側面で不登校等の生徒を受け入れており、当校がない場合にそのような生徒の受け皿があるのか。ある場合であってもそれを他の県立・私立の学校に任せていいのかということについてご意見ありますでしょうか。

構成員 戸畑高等専修学校は、被服科からクリエイティブ・ファッション科に変更して、専門的な技術だけでなく、黙々と作業する中から想像力や汎用性を身に付けることができると感じたこともあります。
資料1のP7の⑮に記載のとおり、服飾を通じた汎用的な資質・能力の形成という意味で専修学校の存在意義は色んな視点から考えないといけないと感じました。

構成員 不登校の生徒については、非常に重要な問題ではありますが、戸畑高等専修学校の元々の設置の目的とは違っていると思います。
当校の在り方と北九州市の不登校対策は、分けて考える必要があると思います。

座長 本検討会議でどこまで議論を進めるかについて、整理する必要があるとのご意見かと思えます。
定員充足率や中退率だけのデータでは、一面的な視点になってしまうため、別の要素があることについては、少し触れた方が良いかと思えます。
最終的なまとめに向けて、大きな柱4点について個別に議論を進めてきました。全体を通じてご質問ご意見ございますでしょうか。

座長 今回の議論では、「特定の産業への人材供給」ではなく、北九州市が後期中等教育学校を持つ意義としては汎用性を高めることとして「学力保障及びその延長として進路保障」を目指し、国も進めている探求により汎用性を高める学校が必要であるのご意見が多かったと思います。

構成員 同じ教育機関である大学も、到達目標である最終的に育てるべき人材像については文部科学省から細かく聞かれます。
戸畑高等専修学校についても、到達目標を設定して達成度を見える化する必要があると思います。まずは卒業生の評価の指標を明確

に打ち出さなければ、学校の次のスタイルが見えづらいと思います。それは就職先に限らず、人格的にどう育てたいかということです。学校が新しくなるのであれば、育てる人材像を新たに打ち出していく必要があると思います。そこを最終報告に盛り込めれば良いと思います。

座長 学校の方向性を変えるにあたって、探求は一つの方法論であって、その先の卒業時にどのような力量を養成して子どもたちを送り出すかについて、ご意見ございますでしょうか。

構成員 自主性・自走性・自立性がキーワードになると思います。
これらを身に付けるには、市高タイムや探求的な学びや部活等が関係してくると思いますが、自主性を育むことを指導すること自体が矛盾しているので、探求等で関わる先生方や大人達がどのような姿であるべきかは検討すべきことだと思います。これを当検討会議の意見のまとめで示すのか、その後の各学校内で議論をしていくのかは意見が分かれると思いますが、検討すべき事項であると思います。

座長 関連してお尋ねします。
資料1のP7の⑮にある、「柔軟な専門性」とはどのようにとらえるべきかを教えてください。

構成員 戸畑高等専修学校の教育課程の大部分を占める服飾関係を変更することが難しい状況である場合には、その教育内容を前提として、出口として服飾業界に就職するための技術を身に付けるというよりは、服飾を通して、色々な資質を学ぶということです。
授業内容から汎用的な能力を紐づける作業を丁寧に行うことで専門的な養育内容であっても汎用性を高めることができるということが「柔軟な専門性」になります。

構成員 柔軟な専門性については、経済地理学でも出てくる用語ですが、基盤となる中核技術があって、その技術でいろいろな分野に柔軟に対応していくというものですが、今の世の中の成長分野に対応できるような中核技術を身に付けて、それをどの分野にどのように使っていくかが自立性や自主性が問われるところだと思います。そこを伸ばす教育を学校が行っていくことが重要だと思います。

構成員 中高の接続について肉付けをしてほしいです。
北九州市としても育てたい人材があり、その目標に向けて9年間の義務教育をがんばっていると思います。ただし、県立高校に行った時点でリセットとなってしまう事例が多くあると思います。本質的には市町村と県のコミュニケーションの問題ですが、市立高校であればコミュニケーションは円滑に行われ、一貫的な学校がつけられると思います。また、北九州市で従来取り組んできたことを、より従前に達成するためにこそ市立高校は必要であるとの方向で整理をして意見のまとめに盛り込んでほしいと思います。

座長 県立高校において併設型の中高一貫校はいくつかあり、それは特別な学校でエリート化しがちですが、多くの公立中学校と緩やかにつながる市立高校があることが北九州市にとってもメリットになるとのお考えと思います。
コストや子ども達だけの話しだけではなく、市立高校を持つことの波及効果として、学びを中核としたまちづくりとかに繋がっていく可能性も示せたらと思います。

構成員 北九州市の子ども数は減ってきており、高校の募集・応募人数が減少している状況であり、市立高校の存在感が問われているところだと思います。今後も存在感を示す場合には、今まで議論になると思います。現実的には中高一貫校でうまくいっていない事例もあると思うので、あるべき姿の理想論だけでなく、北九州市の財政状況等にも触れながら目標達成のための具体的な方策について触れる必要があると思います。
また、産業構造は変わってきており、製造業の規模は小さくなっているところはありますが、製造業に対する人材供給の役割も残っていると感じます。

座長 当検討会議において、学校を残すか廃止するか結論を決めることは難しいと思います。ただ、北九州市教育委員会が今後、両校の在り方を検討する際の視点として、この検討会でのいろいろな意見があると議論がしやすいと思います。

座長 皆様、ご意見ありがとうございました。
それでは、事務局には、本日の意見を踏まえ、検討を進めていた

だきたいと思います。

今後のスケジュールにつきまして、事務局より説明をお願いいたします。

(3) 今後のスケジュール

根橋指導企画課長より説明【資料3】

- 座長 ありがとうございました。
 ただ今の事務局からの今後のスケジュールにつきまして、何かご意見ございますでしょうか。
- 座長 では、よろしいでしょうか。
 それでは本日の議事は以上といたしまして、進行を事務局にお返しいたします。
- 事務局 長時間にわたり、誠にありがとうございました。
 本日のご意見を踏まえ、今後の会議等を進めていきたいと思えます。
 本日の会議の議事録の確認については、元兼座長にご確認を頂いた後に公開をさせていただきます。
 最後になりますが、本日、ご発言ができなかったご意見等がありましたら、**FAX** もしくは電子メールでご連絡ください。
 それでは、これもちまして、第3回北九州市後期中等教育に関する検討会議を閉会いたします。
 本日は、どうもありがとうございました。